

都市再生整備計画(第2回変更)

さか た ち く
坂田地区

さいたま おけがわし
埼玉県 桶川市

平成26年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	さいたまけん 埼玉県	市町村名	おけがわし 桶川市	地区名	さかたちちく 坂田地区	面積	325 ha
計画期間	平成 22 年度 ~ 平成 26 年度	交付期間	平成 22 年度 ~ 平成 26 年度				

目標

大目標：安心して安全に住み継ぐことのできる良好な住環境の形成

目標1	より良い住環境整備を促進し、地区内人口(世帯)の増加を目指す。
目標2	地区内の主要道路・生活道路を整備し歩行者・自転車等の安心安全を確保する。また、首都圏中央連絡自動車道の桶川ICのアクセス道路など主要幹線道路を整備し、道路ネットワークを強化する。
目標3	災害に対応できる地区内拠点・防災設備の整備を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- 本市は都心から約40kmの通勤圏内にあるため、バブル期までに民間投資による開発が進み人口の増加とスプロール化が顕著であった。
- 地区内では、都市基盤整備・優良な住宅地供給を目的とした区画整理事業が施行され、まちづくりを計画的に推進している(坂田東区画S62～H24年度、坂田西区画H4～H33年度(進捗率56.8%))。※進捗率は、平成20年度末の総事業費進捗率。
- 平成24年度には、地区北側に首都圏中央連絡自動車道の桶川ICの供用開始が予定されており、道路ネットワークの強化という視点から主要幹線道路(県道蓮田鴻巣線、県道川越栗橋線等)の整備も同時に進められている。
- 地区内には、4m前後の狭小かつ屈曲した道路が点在しており、災害時の緊急車両(消防車等)の通行や避難場所までの誘導路として住民が利用するにあたり安全確保の困難な道路がある。
- 駅東口は、歩行者・自転車・路線バス・タクシー・一般車が錯綜している状況であり、歩行者や自転車の安全性が確保されていない。
- 地区隣接の近隣公園や区画整理事業にて整備された公園等が市民の交流・憩いの場となっている。

課題

- 首都圏中央連絡自動車道の桶川ICの供用開始時に、主要幹線道路の整備が遅滞している状況では生活道路を通過する車両の増加が見込まれ、交通安全・生活環境に大きな影響を及ぼすことになるため、道路ネットワーク強化が必要となる。
- 区画整理事業の進捗により、行止まり道路や狭小道路は解消されつつあるが、交通安全・防災の観点からも未整備箇所の早急な整備が望まれる。
- 駅東口の安全性確保・利便性向上のため、交通結節点機能を強化する整備が必要である。
- 第1期計画期間中の地区内人口は、既成市街地ではマンション新築による微増、土地区画整理事業を施行する新市街地においては住宅地供給により増加傾向にあるが、更なる地域活性化のために住環境の整備推進が望まれる。

将来ビジョン(中長期)

- 土地区画整理事業を中心としたまちづくりにより、区画整理地内の保留地への関心度も高まると思われる。また、区画整理事業地内には既存の小、中学校の他に民間幼稚園の開園も予定されていることから、若い年齢層に対してのアピール度が高まり、転入者の増加が見込まれる。
- 市民の生命と財産を守るために地域防災計画を整備充実させ、防災施設の整備を進め防災体制の充実に努める。(第四次総合振興計画)
- 桶川駅周辺を中心市街地整備を推進するとともに、既成市街地、新しい市街地の都市基盤の整備促進に努める。(第四次総合振興計画)
- 土地区画整理事業の都市基盤整備により、公共公益施設や道路、公共下水道等の基本的な住環境は整備されるため、適正な建物の配置や宅地面積の誘導など、整備後のきめ細やかなまちなみの誘導を図る一方、既存林等の自然を生かした公園整備や計画的に保全する緑を生かした潤いのあるまちづくりを進める。(都市計画マスタープラン)
- 隣接する加納地区と併せて、住居系及び工業系の土地利用を基本とする市街化区域と田園環境と新たな土地利用が調和する市街化調整区域における、秩序ある土地利用の展開を図る。(都市計画マスタープラン)

目標を定量化する指標

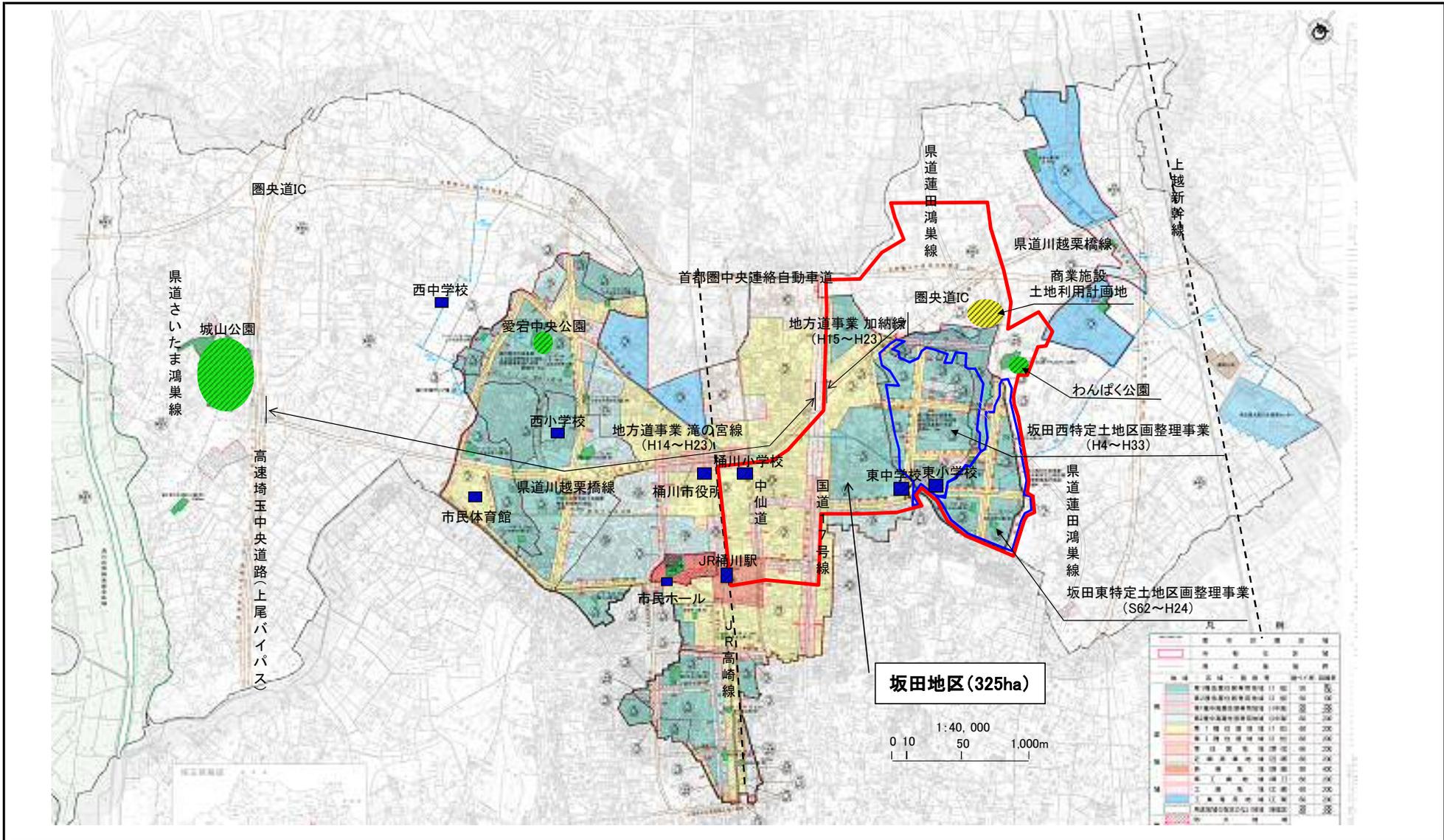
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
世帯数	世帯	坂田区域(区画整理事業地内)における世帯数	住環境の整備により、新市街地における世帯の増加を目指す(直近5年間の世帯及び人口増加率を勘案し、従前値の112%を目標値に設定)	1,748	平成21年度	1,950	平成26年度
緊急車両の通行可能路線数	本	区画整理事業地内の緊急車両が通行可能な道路の本数(6m以上の整備する道路本数)	災害時等における緊急車両の通行可能道路や避難経路を確保することにより、防災に強い安全なまちづくりを目指す(区画整理事業計画における6m以上の区画道路について、残りのすべての整備を目標値に設定)	59	平成21年度	79	平成26年度
交通事故発生件数	件	地区内の交通事故の発生件数(地区全域の交通事故による救急車の出動件数)	歩道・車道、交通安全施設の整備により、事故のない安全なまちづくりを目指す(直近5年間の減少率と同率15%減少を目標値に設定)	88	平成21年度	75	平成26年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1（道路交通網の整備改善）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業において、建物補償や上下水道の整備を行いながら道路整備を行う。 ・土地区画整理事業と街路事業により主要道路及び都市計画道路、圏央道インターチェンジへのアクセス道路を整備し、歩行者・自転車の安全確保や周辺の交通渋滞の解消を図る。 	<p>【基幹事業】 3.4.23坂田寿線整備事業(第2工区) 市道10-1号線 11-1号線 土地区画整理事業(坂田西)</p> <p>【提案事業】 駅東口整備調査事業 組合区画整理推進助成事業 坂田寿線第3工区調査事業</p>
<p>整備方針2（地域防災の安全・強化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4mに満たない道路や行止まり道路を無くし、災害時の緊急車両の進入道路や避難道路を確保する。 ・台風や集中豪雨による浸水等の水害を防止するための既存施設の改修や災害時に避難所となる公共施設の整備を図る。 ・自主防災機能を拡充し、地域防災力の向上を図る。 	<p>【基幹事業】 3.4.23坂田寿線整備事業(第2工区) 市道10-1号線 11-1号線 坂田原南公園 防災倉庫整備事業 土地区画整理事業(坂田西)</p> <p>【提案事業】 駅東口整備調査事業</p>
<p>整備方針3（地区内人口誘致）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏中央連絡自動車道の利便性、区画整理事業による道路や上下水道の整備に伴う生活環境の向上、住民自身の手による特徴ある公園づくり、既存林を生かした計画的な緑地保全等、新しいまちづくりの創造をアピールする。 ・幼稚園、小・中学校の教育環境の充実と通学路等の安全確保により、地区の付加価値を上げ、若い年齢層の住民を誘致することにより人口減少対策を図る。 	<p>【基幹事業】 坂田原南公園 土地区画整理事業(坂田西)</p>
<p>その他</p> <p>○ 交通安全対策事業（関連事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全対策として、既存事業である「交通安全運動」により、地域の変化（道路の新設・拡幅、通過車両の増加・速度等）への対応など住民の安全意識の向上のため、地域や年代を限定するなど重点的なキャンペーンやイベントを実施する。また、毎年度、「交通安全教室」(小学校)、「高齢者交通安全教室」「高齢者自転車運転免許講習実技」(高齢者対象)、「街頭キャンペーン」(全市民対象)を実施しており、子供や高齢者を中心とした交通安全事業を継続する。 	

都市再生整備計画の区域

坂田地区(埼玉県桶川市)	面積	325 ha	区域	桶川市 寿一丁目・寿二丁目・東一丁目・西一丁目・北一丁目・末広三丁目、末広二丁目・南一丁目・大字坂田・大字加納の一部
--------------	----	--------	----	--



坂田地区(埼玉県桶川市) 整備方針概要図

(第2回変更)

目標	安心して安全に住み継ぐことのできる良好な住環境の形成	代表的な指標	世帯数 (世帯)	1,748 (H21年度) → 1,950 (H26年度)
			緊急車両の通行可能路線数 (本)	59 (H21年度) → 79 (H26年度)
			交通事故発生件数 (件)	88 (H21年度) → 75 (H26年度)

